ISSN 0289—9302

TOYO UNIVERSITY LIBRARY INFORMATION BULLETIN

KOΣMOΣ

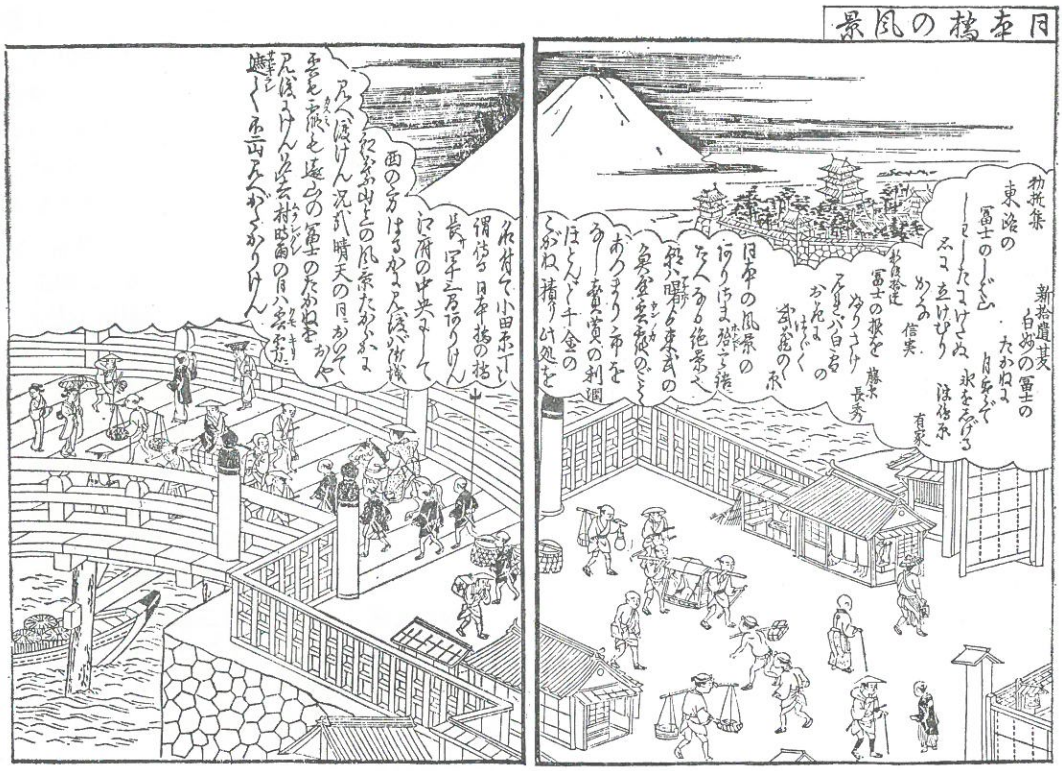
東洋大学創立100周年記念

本学は1987年に100周年を迎えます

コスモス No. 72　1986 冬

特集　方向音痴を超えて

—地名・地理を調べるための本：日本篇—



今年も新しい年が始まりました。旅の出発点，お江戸日本橋〔「絵本続江戸土産」明和２年頃刊。鈴木春信画〕（稀書複製会本　291.36：SH-2）　この絵はうら表紙につながります。

貴重書から

『三宝絵詞』

——東大寺切——

宮田裕行

『三宝絵』または『三宝絵詞（さんぼうえことば）』といわれている。総序に「あまたの貴き事を絵にかかせ，又経と文との文を加え副へて」とあり，もと絵と文章とからなっていたが，いつのまにか絵は散逸してしまい，詞だけが伝わったために，『三宝絵詞』と称せられるようになったものである。

本書は源為憲が出家された冷泉天皇第二皇女尊子内親王のために書いたものであることが，総序と『大鏡』の「この宮に御覧ぜさせむとて，三宝絵はつくれるなり（伊尹伝）」により知られる。成立は総序末尾に「干時永観二年（984）中の冬なり」とあるのが信ぜられている。三宝とは，同じく総序に「総て仏法僧を顕せば，初も善く，中も善く，後も善し，在とし在らむ所には，当に三宝伊坐して可守給し」と述べ，上巻が仏宝，中巻が法宝，下巻が僧宝で合せて三宝となり，三巻を以て組織したことが見えている。

内容は，初めに総序があり，各巻にも小序があって，巻末には讃の詞が添えられている。**上巻**は「昔の仏の行ひ給へる事」で本生説話を挙げ，檀波羅蜜など六波羅蜜を説き，次に流水長者，国王鹿王，雪山童子，薩埵王子，須檀那太子，施無について記している。出典は，六度集経・智度論・大論・報恩経・最勝王経・涅槃経・太子須檀那経・菩薩睒経などである。**中巻**は「中ごろ法のままにひろまる事」で，聖徳太子・役行者・行基菩薩・肥後国シシムラ尼・美作国採鉄山人・大安寺栄好など仏教の受容・布教に功績のあった有名・無名の18名の徳行や逸話などを記している。出典は17話まで『霊異記』であるが，最後の栄好の条だけは『石淵寺縁記』を挙げている。観智院本の中巻の末には「或本云」として妙達和尚の蘇生説話が載録されている。**下巻**は「ひとへに仏と法とをたうとうして，僧と尼とをかろむるなかれ」と云い，正月の修正会から12月の仏名会に至る31条の法会の起源や作法・寺院の縁起・僧侶の伝記などを記している。薬師寺万燈会の条に，「貧女の一燈」の説話がある。

写本には，前田家本・東寺観智院本・関戸家本及び断簡東大寺切の三種が伝わっているが，いずれの本文も相補う部分を持っており，いずれが原典に近いか確定できない。

前田家本は，三冊の完本で，下巻の識語に「寛喜二年庚寅四月九日未剋於醍醐山西谷書写了（中略）正徳五年六月中澣云々」とあり，もと醍醐寺蔵寛喜2年（1230）写本を正徳5年（1715）に極めて忠実に模写したもの。全文和化漢文で，上巻初めの部分には傍訓・送仮名があるが，その他は稀れにしかなく，仮名本を参照しなければ解読しにくい。**観智院本**は，三冊で下巻の識語に「文永十年八月八日彼岸中日　未刻書写了」とあり，文永10年（1273）当時の原本である。上巻は宣命書で，送り仮名・捨て仮名を片仮名で小字に記し，中下巻は一般の漢字片仮名交り文である。**東大寺切**は，源俊頼筆と伝えられ，一面7行，約18字詰，草仮名に所々漢字を交えた優雅な筆蹟で書かれている。料紙は斐楮混漉，下絵に七宝・菱唐草・亀甲などの文様を雲母で摺り，薄墨で幅1.9糎の界線を施し，その枠内に書写されている。その美しさから重要美術品に認定されているもの多く，両面に書写された料紙を表裏2枚に剝し，軸物に仕立て上げられて茶掛として珍重されている。又，手鑑の中にも多く存在する。関戸家には約150枚の一帖があり，その奥書に「保安六年六月書うつしおはりぬ」とあり，保安6年（1125）の書写なること明かである。この一帖は，中巻の大部分と下巻の初めの部分に当り，他は断簡として諸家に分蔵されているが，散逸したものも多く全貌は知り難い。

本館に所蔵されている『三宝絵詞』は，この東大寺切の一軸である。15.0×23.7糎で剝落が著しく，読み難い部分もある。本文は上巻第13話，施無の条で，古典文庫本734行中程から738行初めの部分に当る。

（短期大学教授　みやた・ひろゆき）

コスモス No. 72

特集　方向音痴を超えて――地名・地理を調べるための本：日本編

人間にはだれでも，なにかしら音痴の部分があるものです。すでになくなってしまった地名，新しくできる地名。どんどん変っていく道や街。方向音痴のひとにもそうでないひとにも役に立つブックガイド。（このリストには参考図書以外のものをふくみます）

	書名	出版社	出版年（請求記号）	解説
一般地名・地理辞典	「大日本地名辞書」増補版	冨山房	昭和44～46（291.03：YT）（朝）（川）	すでに伝説的にさえなった吉田東伍編の名辞典．古代から近代までの地名をとりあげ，古文献を引用比較し，自説を述べる．
	「角川日本地名大辞典」	角川書店	昭和53より刊行中(291.03:K-2)(朝,川:291.03:K)	各都道府県別に各１巻をあてた地名辞典で，現在刊行中．索引が１巻つく予定．現行地名を含む歴史的行政地名，自然地名，俗称などを広範囲に採録．
	「日本歴史地名大系」	平凡社	昭和54より刊行中（291.034：N）（朝）	古代から現代までの各時代の行政地名，人文・自然地名，考古地名，城館址，社寺，消失地名も収めた歴史地名辞典．記述の典拠を示す．
	「日本地名大事典」	朝倉書店	昭和47～50(291:03:N:2)(朝:291.03：N-2)（川）	自然地理的説明だけでなく，歴史・民俗・社会・観光にもふれる．約13,000の地名を収録．
	「日本地名大辞典」	日本書房	昭和12～13（291.03：SH）	府県市町村，国郡，古地名，山川湖沼などを見出しとして，地理・地質・現況・沼革などを解説．字・社寺・名勝などは各市町村の項目の中で説明．
	「コンサイス地名辞典：日本編」	三省堂	昭和50（291.03：K）（朝,川：291.03：K-2）	土地・地点の名称，海域・海底地形，運河・ダム・鉱山名等を収録．
	「日本地名辞典」	東京堂	昭和55より刊行中（291.03:YK:2)(朝:291.03:YK）	現在「市町村編」と「日本自然地名辞典」を刊行．「集落編」を続刊予定．「自然地名辞典」では，著名な，島・川・山・森・洞・用水・貯水地等を収録．これに対応する国土地理院の５万分の１地形図名と20万分の１地勢図名を示す．
	「人文地理辞典」	東京堂	昭和32（290.1：KC）	人文地理および関連分野の用語を収録．
	「万有百科大事典　7～8：日本地理」	小学館	昭和55（031：B）（朝）	テーマ別に巻を別けたユニークな百科事典の１部．地名を項目とし，社寺・名勝・港・温泉などは各項目の中で説明．カラー写真・図版が豊富．第21巻が索引．
	「地理学辞典」	二宮書店	昭和48（450.3：C-3）（朝：450.3：N）	地理学用語の概念を明確にすることを目的とする．自然地理・人文地理・地誌学に関する地理学固有の用語，他の分野で多用される地理学用語を解説．
	「最新地理学辞典」新訂版	大明堂	昭和54(450.3:FK:2)(朝)(川:450.3:FK但し旧版)	地名項目を含まない，地理学用語の解説．
地域別地名辞典	「北海道地名誌」(291.03：H)，「地名アイヌ語小辞典」(291.03：CM)，「青森県地名辞典」(291.03：A)，「相馬地名考」(291.034：NM)，「江戸東京地名事典」(291.36：KH)（朝），「南浦地名考」(291.36：R)，「武蔵野の地名」(291.36：NR)（川：291.34：NR），「信濃国名考」(291.52：O)，「岐阜県地理地名事典」(291.53：G)（朝：290.315：G)，「ワカヤマケン ノ トコロナマエ」(291.03：SU)，「大和地名大辞典」(291.65：Y)			
地域百科事典	「北海道大百科事典」(031：H-2)，「青森県百科事典」(031：A)，「山形県大百科事典」(031：Y-3)，「宮城県百科事典」(031：M-2)，(朝：291.23：M)，「岩手百科辞典」(031：I-3)，「福島大百科事典」(031：F)，「栃木県大百科事典」(031：T-4)，「群馬県百科事典」(031：G-6)，「茨城県大百科事典」(031：I-2)（朝：291.31：I)，「山梨百科事典」(031：Y)，「長野県百科事典」(031：N-3：2)，「新潟県県民百科事典」(031：N-5)，「新潟県大百科事典」(031：N-5)，「富山県大百科事典」(031：T-2)，「石川県大百科事典」(031：I)，「千葉大百科事典」(031：C)，「埼玉大百科事典」(031：S-9)（川：213.4：S-4)，「神奈川県百科事典」(031：K-5)，「静岡大百科事典」(031：S-10)，「愛知百科事典」(031：A-3)，「兵庫県大百科事典」(031：H-4)（朝：291.64：H)，「広島県大百科事典」(031：H-3)，「島根県大百科事典」(031：S-11)，「山口県百科事典」(031：Y-2)，「徳島県百科事典」(031：T-3)，「高知県百科事典」(031：K)，「佐賀県大百科事典」(031：S-12)，「宮崎県大百科事典」(031：M)，「鹿児島大百科事典」(031：K-4)，「沖縄大百科事典」(031：O)（朝：291.99：O）　**朝霞分館には，地域百科辞典の大部分が揃っています．**			
地名索引	「全国地名索引」	全国地名索引刊行会	昭和52～54（291.03：KH）	国土地理院発行の20万分の１地勢図から，行政区画以外のすべての地名を採録．各地名の地形図上の位置を示すための索引．
	「地名索引」	雄松堂	昭和42（291.08：N-4）	明治18年内務省地理局刊行のものの復刻版．頭字の画引だけが検索の手がかりで，同画の中は地区別になっている．地名の読み方のふりがながつけてある．
よみかた	「現代日本地名よみかた大辞典」	日外アソシエーツ	昭和60（291.03：G）	個々の地名の読み方，同一漢字表記の地名のいろいろな読み方，それぞれの地名の所在地，同一漢字表記の地名のそれぞれの所在地を示す．約31万件を収録．
	「難読地名辞典」	東京堂	昭和53(291.03：YK)（朝：291.03：YK：2）	郡，区，支庁，市，町，村，大字のほか，俗称，若干の自然地名，道路名を対象とする．画引辞典．
地名の語源	「古代地名語源辞典」	東京堂	昭和56（291.03：K-3）（朝：290.3：K）	「和名類聚抄」の地名を主とし，「延喜式」，六国史，「風土記」などから地名を適宜収録．地名の用字例，所在地などを記し，語源の解説を付ける．
	「地名の語源」	角川書店	昭和52（291.034：KK）（朝）	特定の地名の語源ではなく，それぞれの地名に含まれる語の意味を解説． 例：キド……(1)水門，牧場の入口，(2)谷口，合流点，など．
	「都道府県名と国名の起源」	古今書院	昭和47（291.034：YM）	都道府県名，県庁所在地の起源について各種史料を紹介する．
	「ぶんきょうの町名由来」	文京区社会教育課	昭和59（213.6：T-34：4）	東京都文京区内の主な地名を明治時代の写真もいれながらやさしく解説．
	その他に，「地名用語語源辞典」(291.03：KY)（朝：291.03：C)，「山田秀三著作集アイヌ語地名の研究」(291.034：YS)（朝：291.1：YH)，「地名語源辞典」(291.03：YJ)（朝）			
地名の変遷	「全国市町村名変遷総覧」	日本加除出版	昭和54（291.03：Z-2）	合併・編入・分立・改称など市町村名の変更をその年月日とともに示す． その他に「東京市町名沿革史」(291.36：T-3：3)，「東京町名沿革史」(291.36：SS)
山・河・坂	「コンサイス日本山名辞典」修訂版	三省堂	昭和54(290.19：K)（川：291.03：TT）	国土地理院「20万分の１地勢図」記載の山名，峠名の全部と，各地ゆかりのものをおさめる．自然地理だけでなく，人文地理的解説がある．
	「日本全河川ルーツ大辞典」	竹書房	昭和54（290.19：MT）（朝）	日本の河川名称の語源を示し，有名河川には，文学，歴史，釣など周辺的解説をつける．
	「東京の坂道」	新人物往来社	昭和46（291.36：IT）	それぞれの坂道を地図上に示し，その歴史・エピソードや周辺について述べる． その他に「江戸の坂東京の坂」(291.36:YH)，「ぶんきょうの坂道」(213.6：T-34：3)
史跡名勝	「全国史跡総覧」	柏書房	昭和53（291.03：Z）（朝）（川：291.02：K）	「東日本編」と「西日本編」の２冊．全国の重要史跡について，かなり詳しい解説をつけ，各項目末に参考文献を記す．名勝一覧，天然記念物一覧がある．
	「日本史跡事典」	秋田書店	昭和51～52（291.03：N-3）（朝：291.03：N）	全国の史跡・特別史跡を載せ，所在地，交通機関，国指定年月日を示す．全３巻． その他に「大東京の史跡と名所」(291.36：ST)，「ぶんきょうの史跡めぐり」(213.6：T-34：2)
旧街道	「今昔東海道独案内」	日本交通公社出版事業局	昭和49（685.2：IK：2）	国土地理院の２万５千分の１地形図に江戸時代の道筋を記入し，解説したもの． その他に「今昔中山道独案内」(685.2：IK:3)，「今昔三道中独案内」(685.2：IK)
	「日本の道」	毎日新聞社	昭和48（291：M）	全12巻．たくさんの美しい写真と文章で旧街道のたたずまいを紹介する． その他に「新修五街道細見」(685.21：KY)，「日本街道総覧」(291.09：US)
地誌	「日本地誌」	二宮書店	昭和42～50(291.08:N-6)（朝:291.08:N-3)(川)	現代日本を総合的に把握するための地誌，全21巻．
	「大日本地誌大系」	雄山閣	昭和４～８（291.08：D）（朝）	江戸時代に編纂された地誌21部と明治前半期に完成したもの１部より成る． その他に「近世文学資料類従：古版地誌篇」(291.08：K-2)，「古版地誌叢書」(291.08：K)
事典・文献目録	「地名関係文献解題事典」	同朋舎	昭和56（290.31：KA）（朝）	明治２年から昭和54年末（雑誌論文は昭和53年末）までに発行された地名関係の文献を収録．配列は年次順．著者索引と書名・論文名索引がある．
	「東京関係図書目録」	東京都立中央図書館	昭和56（291.36：T-7）	地名に限らず，東京に関するあらゆる図書・行政資料（昭和55年３月末まで）を収録． その他に各地の郷土資料目録が刊行されています．
	「地理学文献目録」	大明堂	昭和28＋（290.31：J）（朝）	現在第７集まで刊行．地理学および関連諸科学の単行本，雑誌論文・論文集掲載の論文（書評・抄録を含む）を収録，索引はない．

コスモス No. 72

特集　方向音痴を超えて――地名・地理を調べるための本：日本編

	書名	出版社	出版年（請求記号）	解説
事典・文献目録	「地理学研究のための文献と解題」	古今書院	昭和44（290.31：ＩＲ）	戦後出版された地理学に関する単行本の目録，詳しい解題がついている．日本語（訳書を含む）のもののみで洋書は含まない．
	「古版地誌解題」改訂重刊	大岡山書店	昭和８（291.031：WM：2）	江戸時代刊行の地誌類について，詳しい解題を記す．図版が豊富．
	「家蔵日本地誌目録」	名著出版	昭和51（291.03：ＴＴ）	高木利太氏所蔵の地誌類（近代刊行のものを含む）の大部な目録，解題がある．正続２巻．江戸期地誌・紀行・寺社縁起を収録．
	「江戸期地誌紀行類目録稿」	慶応義塾大学三田情報センター	昭和47（291.031：K）	昭和46年10月末現在，慶応大学三田情報センター所蔵の江戸期地誌・紀行・寺社縁起類を収録．その他に「地誌目録」（291.031：N-2：2）
	「地名表記の手引」	ぎょうせい	昭和35（375.39：K-3）	地名のさまざまな表記に統一を与え，初等・中等教育における社会科学習上の障害を減らそうとするもの．
	「標準地名集：自然地名」増補改訂版	建設省国土地理院	昭和56（朝：291.03：K-3）	国土地理院の陸図と海上保安庁水路部の海図に表示される地名の統一されたもののうち自然地名を収録した地名集．
全国地図	「日本分県地図地名総覧」	人文社	昭和34～55（291.038：Ｊ）（朝：但し昭和52～58）（川：291.038：N）	分県地図の他に観光地図，市街地図収録もされる．また，地名総覧，公共機関一覧が付される．
	「新日本分県地図」	国際地学協会	昭和59（291.038：Ｓ-4）（朝：291.038：Ｓ）	分県地図に地名総覧があわせて収録され，一種の地名辞典でもある．
	「日本分県地図」	昭文社	昭和55（291.038：N-4）（朝：291.038：N-3）	
	「日本国勢地図帳」	日本地図センター	1977（291.038：K-4）（朝：291.038：K）	約220種の図により，わが国の自然や社会などの様子を直観的・具体的に認識することができる．
	「日本の自然と社会」	日本地図センター	昭和54（291.038：N-5）（川：291：N）	
	「コンパニオン全国道路地図帳」	ワラヂヤ	（55年版）（290.38：K-2）	
	「最新全国旅行地図」	日本交通公社出版事業局	昭和54（292.038：Ｓ-2）	
	「二万五千分の一地形図」	国土地理院	（白山）	すでにほぼ日本全国をカバーした基本図．
地域地図	「東京都区分地図集」	昭文社	1973（291.36：Ｔ-5）	見開きでＢ３版の大きさ，23区の地図は１万分の１から２万７千分の１の縮尺．
	「東京都地図地名総覧」	人文社	昭和40～55（291.36：Ｊ）（朝）（川：291.36：Ｊ）	１区１市が約80×60cmの大きな紙面の地図におさまる．人口密度，地価公示標準地価格などの一覧付き．
	「首都圏広域市街地図集」	人文社	昭和57（291.3038：Ｊ）（朝：291.038：Ｊ-2）（川：291.3：Ｊ-2）	
	「航空写真地図」	日本交通公社出版事業局	昭和54（291.038：K-5）	
	「東京都広域道路地図」	人文社	1982（291.038：Ｔ-3）	他に「埼玉県広域道路地図」（291.038：Ｓ-3），「神奈川県広域道路地図」（291.038：K-6），「千葉県広域道路地図（291.038：C-2）あり．
変遷地図	「空中写真に見る国土の変遷」	鹿島出版会	昭和57（291.038：N-7）	55か所について空中写真の比較のみならず，社会・経済に関する統計グラフ，年表などで変化の背景までを探る．
	「明治・大正・昭和　東京１万分１地形図集成」	柏書房	1983（291.36：Ｍ）（川：451.81：Ｍ）	首都東京の自然地形の変貌，近代都市としての形成発展の様子を比較照応することができる．
	「地図で見る新宿区の移り変わり」	東京都新宿区教育委員会	昭和59（291.36：Ｔ-10）	
古地図	「日本古地図集成」	鹿島研究所出版会	昭和46（291.038：ＡＴ）	（全19冊）近代日本の黎明期を中心に各時代，各分野の古版地図を選び集め，原寸・原色に復元した．
	「日本地図選集」	人文社	昭和41～57（291.08：N-5）（川）	（全８冊）江戸・京都・城下町・東海道・港町・名所遊覧の各篇について，地図・絵・写真などを用いて立体的に解説．
	「日本の古地図」	講談社	昭和51～52（291.038:N-6）（朝:291.038:N-2）	明治年間に作成された「輯製20万分１図の複刻．153面の地図で日本全国をカバーする．
	「幕末・明治日本国勢地図」	柏書房	1983（291.038：Ｂ）	南蛮渡来以後16世紀から17世紀にかけて，ヨーロッパ人の描いた日本地図及び日本を含む地図を集めたもの．
	「南蛮紅毛日本地図集成」	鹿島研究所出版会	昭和50（291.03：ＭＫ）	原本は天保８年刊．現在の分県地図に相当し，五畿七道の全66国と壱岐・対馬両島の地図をほぼ１国１枚に収める．
	「国郡全図」	近藤出版社	昭和51（291.038：ＩＴ）	
	「明治地理叢刊」	雄松堂書店	昭和42（291.08：N-4）	（全４冊）全国の主要な都市・街道について，江戸・明治・現代のそれぞれの時代の地図で比較する．
	「地図」	平凡社	1977（291.038：Ｃ）	
	「大江戸絵図集成」	講談社	昭和49（291.36：ＩＴ-2）	古地図を趣味ではなく，研究のために利用できるように集成・整理した．
	「古板江戸図集成」	中央公論美術出版	昭和33～35（291.36：Ｋ）	他に「分見江戸大図絵」（291.36：Ｂ），「新添江戸之図」（291.36：Ｓ」などあり．
	「寛永江戸図」	米山堂	昭和５（291.36：K-3）	他に「東海道分間絵図」（291.5：Ｋ）などあり．
	「東海道十五区々分図」	東京都公文書館	昭和46～47（291.36：Ｔ-6）	
	「五街道分間延絵図」	東京美術	昭和51～60（291.08：Ｇ）（朝）	
	「嘉永改正分見大坂図」	伊丹屋善兵衛	嘉永７（291.63：Ｋ）	
	「鎌倉」	東京美術	昭和51（291.37：K-2）	
地図の事典・目録	「図説地図事典」	武陽堂	昭和59（290.3：ＹＫ）	地図発達の歴史的経過と現代の内外の各種地図，地図の応用など具体的に解説した．
	「地図目録」	国立国会図書館	昭和41～57（291.038：K-3）	（全９冊）政府機関発行の地図，および海上保安庁水路部発行の海図を収録．
	「図名便覧」	地図協会	昭和53（454.8：Ｃ）	国土地理院発行の２万５千分の１地形図（未刊行区域は５万分の１地形図）の中から必要な地図を引き出すための索引．
地図に関する読み物	「日本の地図」	国立国会図書館	昭和55（290.38：K-4）	８世紀から現代に至るまでの官撰地図を中心に収載．日本における地図の発達を一望．
	「地図の歴史」	講談社	昭和48（290.38：ＯＴ）（朝）	世界篇・日本篇の２冊．新書版（講談社現代新書）ながら数多くの図版を用いて，古代から現代までの地図の歴史をたどる．
	「日本列島地図の旅」	東洋書店	昭和57（291：ＯＫ）（朝：448.9：ＯＫ）	日本列島の北から南の特色ある地域を多数選び出し，その地域を地図で読む．
	「江戸古地図散歩」	平凡社	1975　（291.04：ＩＳ）	（正・続２冊）副題“回想の下町”．現在の下町の写真，浮世絵，古地図そして池波正太郎の文で織りなす江戸案内記．
	「地図のたのしみ」	河出書房新社	1972　（290.38：ＨＪ）（朝：290.38：ＨＪ：2）	地図学者でも，地理学者でもない，ひとりの地図愛好者が記した地図の話題あれこれ．
	「地図はさそう」	そしえて	1976　（290.38：ＨＪ：2）	「地図のたのしみ」の著者，堀淳一氏による，より実践的な地図を楽しく見るための本．
	「地図の風景」	そしえて	1980～1982（291.038：ＨＪ）（朝）	（全20冊）“立体空中写真と地図とエッセイで綴る新日本風土記”．
	「地図と地名」	古今書院	昭和51（290.34：ＹＫ）	地名について言語学的見地，地図学的見地などより考察．

〔注〕（朝），（川）は朝霞分館，川越分館にも所蔵されており，請求記号は白山と同じことを示します。（朝:＿＿）（川:＿＿）は各分館ごとの所蔵とその請求記号を示します。
このリストは地理・地名に関する図書の一部分であって，すべてではありません。詳しくは係におたずね下さい。
〔＋〕の印は継続して購入していることを示します。

和田不可得

——哲学館の青春紀行——

足尾銅山鉱毒問題で田中正造の運動を助けるため，明治34年12月に学生鉱毒救済会が組織されました。哲学館生もメンバーとして帝大・早大・慶応と共に大いに活躍します。この全都におよぶ学生の活動は，やがて警視庁の注目するところとなりました。義援金募集の小石川方面隊長の哲学館哲学部3年和田不可得（性海）は，ある日井上円了に呼ばれます。結局，館主の「これ以上事態が進展すると君らの将来に影響してくる。私の心中を察して善処してもらいたい」という懇請によって，支援活動はやむなく中止されました。

もとより社会の批判者・革新者であろうとした不可得は，33年にははやくも仏教近代化へのとりくみをはじめています。哲学館講師境野黄洋（哲）の勧めで新仏教徒同志会に入会，機関誌『新仏教』の編集に携わる一方，やがて自らの仏教革新の論陣を展開するための準備をすすめていました。同会は哲学館出身の境野・田中治六（哲学館講師）・高嶋米峰（京華中学校講師）が中心となって，旧態依然の当時の仏教界に対抗して組織されたものです。仏教近代化史上，清沢満之の精神主義運動と双璧をなすものといえましょう。

ところで，不可得に入会をうながした境野の当初の目的は，不可得が正岡子規門であることから，その作品を『新仏教』誌上に寄稿させることにあったようです。不可得が根岸短歌会に出席するようになったきっかけは，同郷の哲学館ＯＢ新免一五坊（「コスモス」№70掲載）の誘いによるものでした。その縁で藤木家の養子となった一五坊が，「安民，三氏，不可得，格堂皆それぞれの天狗のみである」（「雪の会」『佐用文化』第14号）と俊英たちの活気のさまを記しています。その頃の不可得を詠んだすでに病床生活久しい子規の作品です（『明星』第2号，明治33年5月1日）。4月7日仏者不可得来る，と前書して，

仏を話す土筆の袴剝ぎながら

この句について不可得の回想があります（『高野』昭和9年1月号）。

> 一日訪づれた時に，偶まお妹さんが採って来られた，土筆を煮て喰はうとのことで，お枕下で，妹さんと土筆の袴をとりつつ談った。

35年，哲学館を終えて帰郷する若き弟子のために，痩せ果て死を目前にしながらも，子規は，

> 「君の宗教上の考も，去年『仏を話す土筆の袴剝ぎながら』と日記に誌した時より，余程違ッたねー」（中略）仰臥のまゝにて，青色の蟷螂を一匹画かれ，其わきへ大きく，『勇猛心』とかき，下へ小さく『臥病十年かまきりのごとき腕に筆を握りて，子規子』と誌され（『新仏教』第3巻第8号，明治35年8月1日）

とあるように揮毫してはなむけとしました。この気概こそ，不可得が終生子規を敬愛してやまなかった理由の一つと思われます。次は「正岡先生を思ふ」と題する不可得の哲学館時代の歌作です（『東洋哲学』第7編第12号，明治33年12月5日）。

日の本の歌もるみ神さきはいて
　　人のいたつきはらへと申さく
しきしまの歌の衰へ興すべき
　　人のこやせる秋は悲しも
たぐひなき歌人やみて長秋の
　　月夜よけれと歌はなし
歌の神はいづちゆきけん病みこやし
　　竹の里人歌もつくらず

人間の，あるいは人生を明暗で語るならば，のちに宗門の頂点にたった，いわゆる光の面を歩みえたという，成功者の青春の一コマです。

和田不可得（わだ・ふかとく）

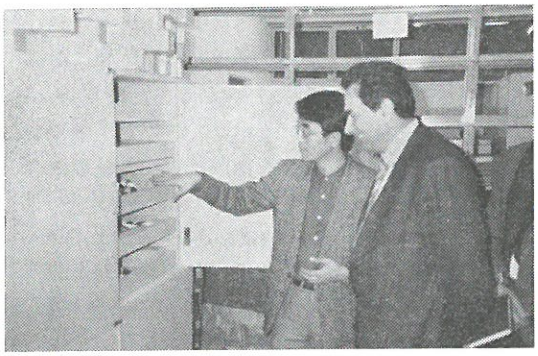
明治12年兵庫県に生まれた。名は覚治。法名性海。明治32年，哲学館在学中，同郷の新免一五坊の紹介で子規庵歌会に参加した。大僧正，高野山管長，高野山大学長をつとめた。昭和37年没（『子規全集』別巻3，講談社，昭和53年）。

TOYO UNIVERSITY LIBRARY INFORMATION BULLETIN *KOΣMOΣ*
1986 冬（No.72）1986年1月15日発行　編集：コスモス編集委員会　発行人：大川信明　発行所：東洋大学附属図書館　東京都文京区白山5丁目28番20号　Tel.（945）7314

図書館 あ・ら・かると

★ 白山だより ★

さる12月12日，フランスの ストラスブール大学第２大学副学長タンダン先生が来館されました。



円了自筆の書を御覧になるタンダン先生

★ 朝霞分館だより ★

○**学年末試験期間中** の開館時間が次のようになります。

１月20日～２月５日　　9:00～6:00

ただし上記期間中，**土曜日**は　9:00～4:00

○４月からの **新図書館オープン準備**のため貸出・閲覧・日程が変更になります。

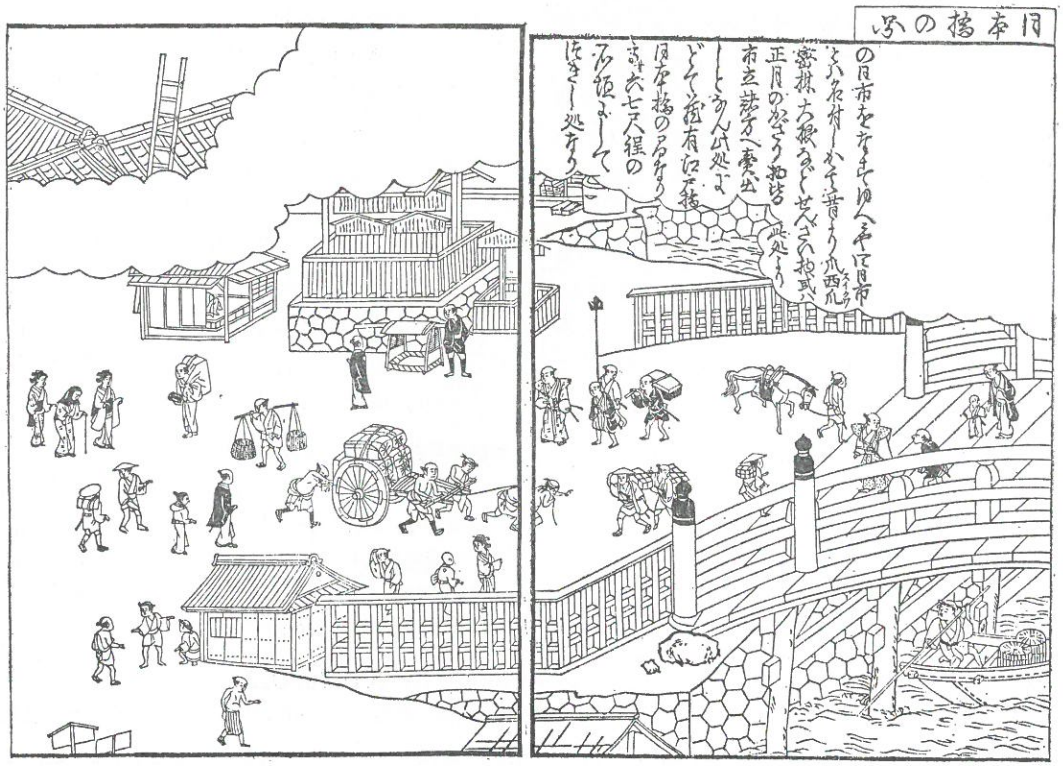
館外貸出　１月17日～新館オープンの 日まで館外貸出を中止します。また 春休み貸出しも 今年は行いません。

閲　覧　１月17日～２月６日は 館内閲覧のみになります。

閉　館　２月７日～新館オープン の日まで

新朝霞図書館は２月末に 完成します。４月の新図書館オープンをお楽しみに！

★ お　知　ら　せ ★

卒業される方へ――校友の図書館利用について

卒業後も校友として 本学の図書館を利用することができます。**卒業証明書**（**卒業証書は不可**）を提出し，図書館利用カード（校友）の 発行を受けて下さい。館外貸出は３冊１か月間，館内閲覧 は５冊。以上の要領で利用できますが，詳細は 各館カウンターでお尋ね下さい。